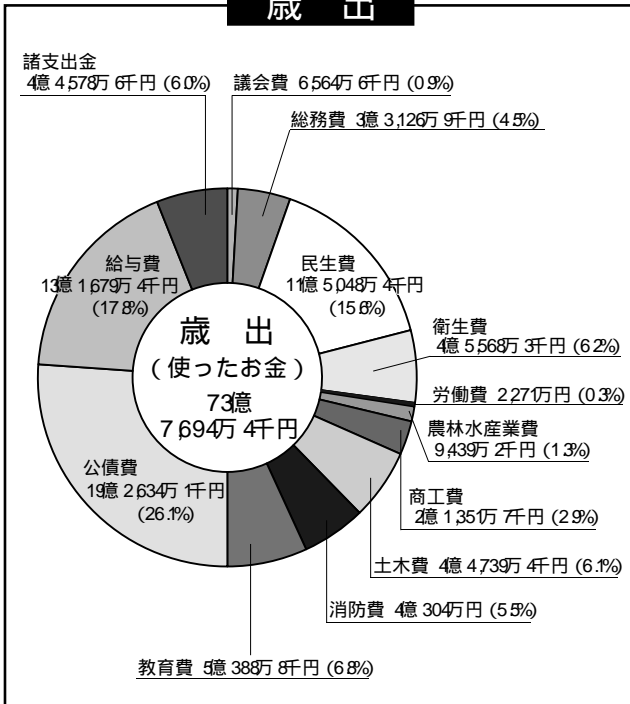


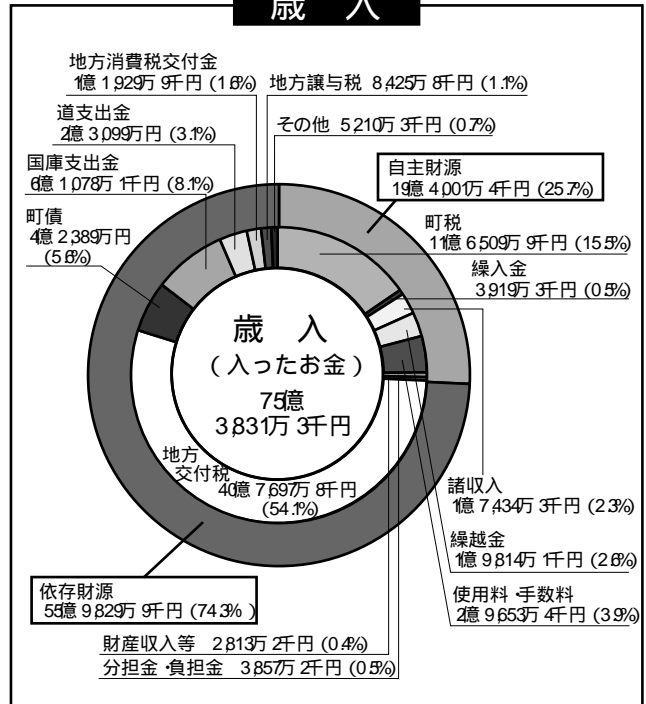
平成21年度決算の概要

まちの家計簿

歳出



歳入



一般会計

歳入 75億3,831万3千円
決算額 (対前年度 7.2%減)

歳出 73億7,694万4千円
決算額 (対前年度 7.0%減)

平成21年度決算は、合併後5年目の決算となります。合併以来、事務事業の見直しによる行政サービスの適正化と行政コストの縮減、職員数の適正化や職員給与の独自削減等の内部管理経費の削減などを行ってきました。しかし、当町は公債費等（借金の返済）が今後も多額で推移することから、平成18年度に公債費等を適正に管理する

平成21年度の町の決算が9月の町議会で認定されました。そこで今月は昨年度、町のお金がどのように使われたのかをお知らせします。

収支の状況

平成21年度の一年間に、町に入った金額（歳入）75億3,831万3千円から使った金額（歳出）73億7,694万4千円を差引いた額は、1億6,136万9千円で21年度から22年度への繰越事業に必要な額を除くと1億5,526万7千円（実質収支）となりました。

ことを目的に「洞爺湖町公債費負担適正化計画」を策定し、現在は着実に低減化に向けて取り組んでいます。また、公債費等が町の収入に対する割合を示す実質公債費比率が、平成20年度決算で29.8%となり財政健全化団体になりました。このため昨年12月、議会の議決を得て財政健全化計画を策定しました。町の家計簿（決算状況）の実状をみてみると、合併後に実施してきた歳出削減により、当町が目指す当該年度の収入で支出を賄うことができる財政運営が平成21年度においては、達成できておりますが、公債費等が多額で推移しており、依然、町の財政を圧迫している状況にあります。